

昭和四十九年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議錄第五号

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
認定第一号乃至認定第七号	二
議案第七十一号	〇
議案第七十二号	一
陳情第一号	二
閉会	二
本日の会議に付した事件	二

一、昭和四十九年九月三十日（月曜日） 午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番	吉 田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流 山 源次郎	四 番	鈴 木 稔
五 番	近 藤 好 雄	六 番	栗 原 一 雄
七 番	渡 辺 昭 夫	八 番	石 井 武 敏
九 番	辻 田 実	〇 番	渡 辺 軍治郎
一 番	山 本 昇	一 番	藤 田 益 治
一 番	五十嵐 昇	一 番	和 田 一 郎
一 番	辻 井 謹 爾	一 番	安 西 益 男
一 番	島 野 茂樹郎	二 番	鈴 木 市 蔵
二 番	田 村 源治郎	二 番	菊 井 敏 博
二 番	西 村 真 次	二 番	安 沢 徳 順
二 番	飯 田 義 男	二 番	望 月 照 正
二 番	田 中 禄 郎	二 番	秋 山 六 三 郎
三 〇 番	遠 山 ヨネ子		

一、欠席議員 二名

一 四 番 伊 賀 多 朗 二 〇 番 君 塚 喜 三

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和四十九年九月三十日午前十時開議

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十八年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十八年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十八年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十八年度館山市児童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

認定第七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） 本決算は共に、去る九月二十四日に特別委員会を設け、付議されたものであります。

よって、これより決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長報告を求めます。

認定第一号 昭和四十八年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十八年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十八年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十八年度館山市児童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

認定第七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

損害賠償額の決定について
人権擁護委員候補者の推薦について

日程第二 議案第七十一号
日程第三 議案第七十二号
日程第四 陳情第一号

開

議 午前十時二十四分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十七名、これより第三回市議会定例会第五日の会議を開会いたします。

決算審査特別委員会委員長西村真次君御登壇願います。

(二四番議員西村真次君登壇)

〇二四番(西村真次君) ただ今議題となりました認定第一号乃至第七号、昭和四十八年度、一般会計並びに特別会計決算にかかる決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

去る二十四日開会の本会議におきまして、本委員会に付託となりました認定第一号乃至第七号につきまして、二十五日委員会を招集いたし、各会計における決算につき慎重に審査を行ないました。

本決算につきましては、すでに監査委員によりまして厳重なる監査が実施せられ、その結果、計数は正確であり、予算執行はおおむね所期の目的にそい、適法かつ効率的になされている旨の決算審査意見書が付されておるところであります。尚、本委員会といたしましては、議会の立場より特に付託の趣旨を体しましてこれが審査に臨んだわけでありす。

審査の方法といたしましては、一般会計歳出は各款ごと、歳入は一括、特別会計については各会計ごとと審査を進め、その審査過程におきましては、特に本会議、各種委員会において論議されました事項等につきまして、市当局の考えをただし、あるいは処理状況についての報告を求め、さらには今後検討を要すると思われる改善すべき事項等を指摘、要望いたし、総括的には予算議決の趣旨にそって効率的な予算執行がなされているかどうかを中心として審査を行なった次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等、整理いたしまして、論議

されましたおもなる点についてご報告申し上げます。

まず、一般会計歳出、議会費中、食糧費二十一万四千七百八十五円の内訳について説明を求めましたところ、

会議用食糧費として三十五日分十八万五千七百八十五円、接待用食糧費として、視察接待四十三市、二百八十七人分、二万九千円を支出したとの説明がありました。

なお、議会会議用食糧費につきましては、今までもたびたびその考え方について論議され、市当局の見解も示されておりますが再度この点について伺いましたところ、他市の状況等も勘案の上主として議会運営の能率化をはかるという意味から、支出しておりますが、今後の問題として研究したいとの回答がありました。

次に、総務費、防災対策費中、防災会議委員報酬が支出されておりますが、防災会議の開催状況について伺いましたところ、四十八年度は三回開催しております。その審議内容といたしましては、地域防災計画の修正、防災訓練等について審議し、なお地震対策を重点として、地震発生時における被害想定を作成、検討をいたしております。四十九年度は引き続き公共施設の被害想定を検討中である旨の回答がありました。

本委員会といたしましては、大地震発生が懸念されている現在、特に老朽校舎をかかえておる学校等について、児童の安全確保の面から十分なる調査、検討を要望いたしました。

次に交通安全施設整備工事請負費千三百六十九万円について、その内容の説明を求めましたところ、歩道六四三・二五メートル九百五十万円、カーブミラー三十六基、百三十万六千六百円、ガードレール三八・五メートル十七万九千円、標識類百四十八本、

八十五万円、路面表示三、五七七メートル五十万円、チビッ子ゾーン、スクールゾーン等の路面表示十九カ所、三十六万二千五百円、道路照明四基、七十万円等の工事を実施したとの回答がありました。

次に民生費中、青年館行事委託料として三十一万五千円が支出され、これによって青年館連絡協議会による球技大会が実施されておりますことは、青年館活動の充実という観点から敬意を表するところでありますが、しかしながら、四十九年度において、運動会の開催が計画されたことに關し、各町内会に寄付趣意書の配付をみておることは、委託料に無理があるのではないか、運営について指導の必要はないかとの質問に対しまして、公立の青年館行事の一環としての運動会開催について、寄付行為はまずいということで、中止するよう指導した旨の回答がありました。

次に、農林水産業費、農業振興費中、農業近代化資金利子補給金、果樹経営集團育成事業補助金、米生産調整集團転作奨励補助金が支出されておりますが、これらの事業については実績の報告を求めましたところ、農業近代化資金については、取り扱い件数二十四件、四千三百三十四万円が利用されておりまして、おもなものとしましては施設二十件、機械器具、家畜の導入二件で利子補給の率については個人、共同により異なりますが、末端において年五分五厘をもって借入できるよう措置しております。

果樹経営集團育成事業につきましては、那古及び沼のびわ山の道路舗装を四十七年度より三カ年計画をもって、県費三〇%、市費二〇%、地元五〇%の負担割合で施行するもので、本年度まで二、二一五メートルを実施しております。

米生産調整集團転作奨励補助金につきましては、全般的な転作と異なりまして、本市単独の事業でありまして、一集團一ヘクタール以上転作した場合に、一〇アール当たり五百円を補助するので、九重の水岡、寶貝、安東地区のハス、四・三八ヘクタールに対して奨励補助したものである旨の説明がありました。

次に水産業費につきまして、市は千葉県漁業信用協会に対し、百三十万円の出資をして漁業者の融資の円滑化をはかっており、特に近代化資金については一部利子補給等実施されておりますが、担保力の弱い漁業者に、十分なる活用がなされない面も考えられますので、今後市独自の融資制度について検討されるよう要望いたしました。

次に観光費中、花卉植栽委託料として三百万円、やし並木管理委託料九十万円が支出されておりますが、本事業の内容について説明を求めましたところ、

花卉植栽事業は、県の補助事業として四十七年度より実施しておりますものでありまして、四十八年度においては、鳥久の跡地一万平方メートルに二百七十万円をもってポピーを中心とした植栽を行なったほか、伊戸に二カ所、約二、五〇〇平方メートルを借り上げ、三十万円の委託料で植栽を実施し、多くの観光客の利用に供したとの説明がありました。

なお、北条海岸のグリーンベルト内に近所の人たちによって花壇が整備されており、観光客の目を楽しませておりますが、これについては、何ら助成の措置が講じられていない現状にありますので、種子代等の助成について検討されるよう要望いたしました。次のやし並木管理委託料につきましては、北条海岸のやし並木

約百五十本に対する除草、施肥、防除、灌水等の年間の管理委託料である旨の説明がありました。

本委員会といたしましては、更に委託後の管理状況の把握、指導に万全を期するよう要望いたしました。

次に、土木費中、道路舗装四カ年計画は所期の目的どおり完了し、多大の成果をおさめられたことに對し、敬意を表するところでありますが、なお今後の方針について伺いましたところ、道路は、住民生活の基盤であり、綱光館山にとっては重要な問題でありますので、計画としては、全市道を舗装する方向で進みたい旨の答弁がありました。

次に公園費中、運動公園現形測量委託料三百六十万円が支出されておりますが、測量の内容について説明を求めましたところ、現形測量は、実測を業者に依頼し、千分の一と二千分の一の各図面を作製させ、なお、実測に当たっては、境界については、開発公社立ち会いのもとに境界標を埋設し、図面にもこれを記入いたしました。この図面に基づいて公園係において一応の計画図の検討はしておりますが、運動公園については、県に要望いたし、できるだけ県で実施してもらう方向に進みたいとの説明がありました。

次に消防費中、超短波無線傍受機購入費百九十九万余円につきましては、消防自動車用二十八台、部長以上の幹部に常置するもの四十四台、計七十二台の傍受機が当初計画どおり購入されておりますが、部長以上のみで、機能は十分に果たせるのか、また分団によっては後援会が団員に買い与え、或いは団員個人で購入した事例もありますが、これらについては十分な指導が行なわれてい

るか、現状をどのように認識しておられるかとの質問に對し、傍受機を部長宅に常置しても、火災発生の場合、先ず、部長が覚知して、然る後、サイレンを吹鳴する等により団員に知らせなければ出動できないわけで、理想からいえば団員まで常置するのが最良であります。現在、二十八部中、団員数は多いところで二十名、少ないところでは十名程度、班長の数については三名乃至五名でございますので、せめて班長以上ぐらい常置できる体制をと考えておりましたが、その後、後援会等で購入していただいておりますという現状から、やはりある程度の数を各部に備えて、出動に支障のないよう漸次、台数をふやしていきたい旨の回答がありました。

次に、教育費中、宿日直代行員賃金が支出されておりますが、この実施状況について説明を求めましたところ、

本制度は、教職員の勤務負担軽減の観点から、宿直については一週間一回以内、日直については月一回以内、これ以上の場合には代行員を採用して勤務させるようにという県教育委員会の指導を受けて実施しておりますが、現在、代行員を置いておりますのは、小学校では、船形、館山、北条の三校、中学校では一中、二中の二校である旨の説明がありました。

次に中学校費中、公有財産購入費として、二中用地購入費八千九百九十五万二千七百円が支出されておりますが、これについては全額支払われておるのか、供託されている部分がありましたら説明願いたいとの質問に對しまして、総額八千九百九十五万二千七百円のうち、五千六百九十七万六千七百円を供託しておる旨の説明がありました。

次に、学校教育費について幼稚園、小学校、中学校のそれぞれ、児童一人当たりの費用はどのくらい伺いましたところ、四十八年度、建設費を含めまして、小学生一人当たり五万七千四百七十三円、中学生一人当たり十二万九百九十一円、幼稚園児一人当たり六万二千三百三十三円である旨の説明を受けました。

次に、公民館費につきまして、公民館分館建設に伴いまして、備品購入について地区によつては、寄付を集めておるところもありますので、市における備品購入費の増額はできないのか、また公民館利用にあたっては時間的な制限等使用上の制約があつて、十分な活動ができないとの声もありますので、これに対する市の考え方をたしましたところ、備品につきましては、建設に伴い若干の購入費は計上いたしておりますが、なお、地域の実情に即して、お願いできればということをやっております。議会におきましても増額の指摘を受けておりますので、物価の変動等も考えまして相談してまいりたい。また、利用につきましては無人でありますので、無制限というわけには参りませんが、特別な場合は話し合いにより使用していただいております旨の説明がありました。

次に不用額につきまして、歳出予算総額三十一億八千七百三十八万円に対し、二千九百四十四万二千五百七十七円であり、その割合は〇・九%となっております。本件につきましては、各款にわたっており、その内容を検討いたしますとき、物品の一括購入によるもの、入札によるもの等が主たるものでありますが、特に重点施策である教育費、民生費においても多額の不用額が計上されておりますので、今後、なお予算計上にあたっては、適正な積算と計画的な執行に一段の配慮を要望いたしました。

次に歳入であります。市税につきましては、徴収率九八・五%、十一億四千五百七十九万余円が収入されておりまして、市当局の努力を多とするところでありますが、不納欠損額として三十三万三千八百五十四円が計上されておりますので、この内容について説明を求めましたところ、個人市民税において百五十五件、八万九千二百二十四円、法人市民税六件、一万三千二百円、固定資産税、都市計画税七十九件、十八万八千九百十円、軽自動車税四十一件、四万二千六百二十四円となっております。その理由としては、いずれも生活困窮、居所不明、倒産等によるものである旨の説明がありました。

本委員会といたしましては、税負担の公平の観点からあらゆる方策を講じ、不納欠損額の減少にいつその努力を要望いたしました。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げた次第であります。本決算書を総体的にみますとき、提案理由にも述べられております如く、当該年度は、あたかも石油危機による異常な経済情勢とこれに伴うきびしい財政事情に当面しながらも、なお、産業、教育、観光、福祉を重点として各種事業を執行され、実質収支、一億一千七百四万三千二百二十円の繰り越し決算を遂げられましたことは、市当局の努力によるものでありまして、予算議決の趣旨に沿い、おおむねその目的を達し得たものと認め、深く敬意を表するところであります。

今後、なお、市当局におかれましては、財源の確保と合理的な予算の執行につとめられ、市民福祉の向上と市勢の伸展に一段の努力を傾注されるよう要望いたしました次第でございます。

以上により、本委員会は、付託を受けました認定第一号乃至第七号、昭和四十八年度一般会計並びに特別会計各決算は、いずれも認定することに決しました。

ここに、決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果についてご報告申し上げた次第でございます。

満場のご賛同をたまわりますようお願い申し上げます。委員長報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 本報告につき御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 不幸があったので、会議に参加できませんでしたので、一点だけ今の委員長報告について質問したいと思うんですが、委員長報告の中で、二中の用地購入の代金を一部中村庸一郎さんが受け取らないで供託しているということがあります。またけれども、どういう理由で受け取らないのか。その点が審議されたかどうかをお伺いしたいと思います。

○二四番（西村真次君） お答えいたします。

先ほど、御報告申し上げたとおりでございます。渡辺議員さんの御質問の趣旨のような質疑が行なわれませんでしたので、お答え申し上げます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、認定第一号昭和四十八年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対する討論を行ないます。

私は、昭和四十八年度の当初予算に反対討論を行ないました。それを前提にして述べたいと思います。

市長は、昭和四十八年度予算説明の中で教育、産業、観光を主軸に市民福祉達成のため財政投入をしたといっています。また、決算報告の説明でも、産業、教育、福祉の増進のために最善の努力をし、住民負担の軽減につとめてきたといっていますが、教育民生費は構成比は四四・七二％、当初予算から〇・一四％の伸び率、農業、水産、商工、観光費は七・五％で〇・一％の伸び率に過ぎません。これでは市長の言うように産業、観光の増進につとめたとは受け取れない決算内容になっています。

美しい自然環境に恵まれた館山市が、観光レクリエーション地域として発展していく上で大切な産業、観光に対する施策が全く立ち遅れています。大資本の乱開発から自然環境を守り育てること、それと合わせて水産資源等の産業の開発に積極性が見られませんが。

社会福祉については、六歳未満の乳幼児医療費の無料化、六十歳以上の寝たきり老人、心身障害者四級までの医療費無料化の拡大、老人特別年金の支給、交通遺児手当、敬老祝金の増額と積極的な面は評価しますが、次の諸点については容認できません。

第一点は、議会食糧費二十一万四千七百八十五円の支出についてですが、議員の弁当代は各自の報酬の中から自弁するのが当然

で、議員だからといって特別扱いにする理由はありません。特に市民から選ばれた選良としてその政治姿勢をただすためにも議会食糧費は廃止すべきだと考えます。

第二点は、ベリンハムの親善旅行費二百十万円の支出ですが、この支出は前市長からの慣行として隔年に実施されていますが、この種の外国旅行の必要性については疑問がありますので、廃止すべきものと考えます。

第三点は、国、県の市長会の負担金合計六十九万五千円の支出は、この種の支出としては多過ぎるので削減すべきものと考えます。

第四点は、市町村圏事務組合に屎処理場建設費として二百二十五万三千円を支出していますが、いまだに用地取得ができないのは問題であります。市独自としても建設計画を進める必要があります。

第五点は、町内会に対し行政事務委託料として四百六十三万六千円の支出及び徴税費としてそれぞれの納税組合に対する報償金一千四百六十六万三千二百三十円の支出ですが、これらの支出については問題があります。地方自治法第十四条の二項では、行政事務に関しては条例で定めなければならないことになっていますが、条例の定めがありません。また、これらの支出が条例のない規則で定められています。地方自治法第十五条では、法令に違反しない限りにおいては規則を制定することができるとしています。行政事務の負担区分を明らかにした地方自治法第二条、私人の公金取り扱いを制限した地方自治法第二百四十三条、これらの法令に違反する規則に基づいた支出を認めることはできません。

第六点は、急傾斜地危険防止事業負担金百六十万円をはじめ漁港、館山港、県道舗装、街路改良舗装、観光道路等国、県の単独事業の負担金合計は九千二百六十五万一千二百五十円と相当大きな支出となり地方財政を圧迫しています。これらの負担金は地方自治法及び地方財政法の原則に基づいて処理し、解消するよう要求します。

第七点は、三芳水道企業団の分担金四百三十万円の支出ですが、この分担金の配分率は操業以来四年後の情勢の変化で適応しなくなっています。したがって、この配分率の改定は水道加入戸数、水の使用量等科学的な資料に基づいて決定するのが合理的であり、公益事業の原則でありますので、改定の促進を要求します。

第八点は、谷藤原運動公園測量費として三百六十万円の支出についてですが、市として谷藤原に運動公園をつくる具体的な方針は決定していません。したがって、その経費を予算に計上することは地方自治法第二百二十二条の規定に違反しています。同用地は公村の財産で、公社の事業計画も分譲土地となっているので、その測量費は公社の経費として支出すべきもので、一般会計からの支出を認めることはできません。

第九点は、県の単独事業である安房博物館の寄付金一千万円の支出ですが、地方財政法第二条は「地方公共団体は他の地方公共団体の財政に類を及ぼすような施策をしてはならない」とし、同第九条は「地方公共団体又は地方公共団体の機関の事務を行なうために要する経費については当該地方公共団体が全額これを負担する」としています。なお、同二十八条の二項は「法令の規定に基づき経費の負担区分が定められている事務について、他の

地方公共団体に對し、当該事務の処理に要する経費の負担を転嫁し、地方公共団体相互の間における経費の負担区分をみだすようなことをしてはならない」と規定しています。安房博物館の寄付金は県の要請に基づいたもので明らかに地方財政法に違反した支出であり、認めることはできません。

第十点は、二中用地購入代金として八千九百九十五万二千七百円が支出されていますが、そのうちの中村庸一郎氏の分については受け取りを拒否されたので、法務局に供託していると聞いていますが、これははなはだ不明朗な話で、行政の不手ざわとしてその責めはまぬがれないと考えます。

次に、歳入についてですが、第十一点として、農業委員会の県支出金二百十八万七千円の収入に對して、支出のほうは千七百四十五万千六百十円で大幅な超過負担になっているので、改善するよう要求いたします。

第十二点は、寄付金収入についてですが、その合計は三千六百四十三万六千六百十円で当初予算より千二百四十三万二千六百六十円の増になっています。そのおもなものは市道の舗装、漁港、消防、青年館等の寄付金三千二百八十八万六千三百円でありますがいずれも公共事業で公費で負担すべきものであることは、地方自治法、地方財政法からみて明らかであります。したがって、行政経費を寄付金に求める法的根拠はどこにもありません。寄付金を合理化す条例も規則もありません。全く無法なものです。この寄付金を予算化す限り、実施の面では地方財政法に違反する割り当てる的な寄付行為にならざるを得ないことは事実が証明しています。市長は、決算報告の説明の中で住民の負担軽減に努力してきた

といっていますが、事実が税外負担を増大させています。これは自民党政府に直結する本間市政と住民との矛盾のあらわれであります。

日本共産党は、市民の命とくらしを守る住民本位の市政を確立するために、行政事務の再配分とそれに見合う財源の補償を要求します。当面、地方交付税を四〇％に引き上げ、国の補助事業の分担率を三分の二以上とし、補助単価も現勢に見合ったものとして超過負担を解消するよう主張して、昭和四十八年度一般会計決算の認定に反対する者であります。

次に、認定第二号昭和四十八年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対する討論を行ないます。

医療費の上昇、医療無料化の拡大等で医療給付の増大により、保険会計の決算額も昭和四十六年度の指数一〇〇から、昭和四十八年度の指数は一四七と大幅に増加しています。歳入面で一千七百七十六万六千二百四十円の財産売り払い収入と一般会計から一千五百萬円の繰り入れをしても、保険税は昭和四十七年度より一億二百二十三万五千二百二十八円の増加となり、昭和四十八年六月には保険税二五％の値上げになりました。

保険税の値上げは、インフレ高物価の中で市民の大きな負担になっていきます。したがって、このような決算は市民の立場に立って認めることはできません。

なお、総務費で六百六十五万二千七百三十七円の超過負担になっていますが、その解消を要求し、合わせて国庫負担金、補助金を増額し、保険税の値下げを主張して、昭和四十八年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対するものであります。以上、

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行ないます。採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、認定第一号昭和四十八年度一般会計決算についての採決は起立により行ないます。

認定第一号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告のとおり、認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって、昭和四十八年度一般会計決算は委員長の報告どおり認定することに決しました。

ついで、認定第二号国民健康保険特別会計決算を起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって、昭和四十八年度国民健康保険特別会計決算は委員長の報告のとおり認定することに決しました。

ついで、認定第三号乃至第七号各特別会計決算を一括して起立により採決いたします。

認定第三号乃至第七号についての委員長の報告はいずれも認定すべきであるとするものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立全員。よって、認定第三号乃至第七号の各特別会計決算はいずれも委員長の報告のとおり認定するに決しました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第七十一号損害賠償の額の決定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第七十一号 損害賠償の額の決定について

議 案 の 内 容 説 明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

○衛生課長（館石勘治君） 議案第七十一号について御説明を申し上げます。

この交通事故は、ここに記載してありますとおり、五月十五日の午後三時頃側溝清掃班の小型の車が正木のほうから東藤地区に進行途中に、トラックの上ののっけて置きました側溝清掃班の用具で汚水の散布の防止箱というのが木の箱でつくってございまして、その箱がちょうど正木のほうから出てまいりまして東藤のほうに出てまいります。つまり小学校に入るこちらから行って手前

のところでございますが、そこがそのとき相当の風が吹いておりましたので、南西の風に当たりましてその箱が車から飛んで道路に落ちたわけでございます。

そのとき、おりあしく道路の右側を羽山清一郎さんが一輪車に田植用の苗を積んで運んでまいりましたところに、ちょうどその箱が当たりまして、左右の大腿部と、それから足の甲に当たったわけでございます。そこをけがをしたわけでございます。

直ちに、西川病院に運びまして治療を受けたのでございますがその羽山清一郎さんは六十八歳でございますして治療に時間がかかったわけでございます。治療日数が二十四日をみたわけでございますして、たまたまこのおじいさんは田植え、その他農業の作業に従事しておった途中の関係上、それに要します休業補償と、それからその者の慰謝料等こういうものを合わせまして二十万二千五百二十円に示談がきまつたわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することにより御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採

決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第七十二号人権擁護委員候補者の推薦については議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第七十二号 人権擁護委員候補者の推薦について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

（市長本間 譲君登壇）

○市長（本間 譲君） ただいま上程されました議案第七十二号につきまして御説明を申し上げます。

人権擁護委員の一名が七月十四日、ちょっと任期が延びましたが、任期満了になったわけでございますして、その後任、すなわち今までやっておった谷野律子さんを推薦をいたしたい。

この方は、なかなかりっぱな方でよく活動もするわけでございますので、特に推薦をお願いいたしたいと存する次第でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

御質疑願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することにより御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

陳情書の上げ

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、陳情第一号陳情書を議題といたします。

陳情書を朗読させます。

（書記朗読）

陳情第一号 陳情書

○議長（吉田勇治郎君） 朗読を終わりました。

本件について御発言はございませんか。――御発言なしと認め

ます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本件を採決すべきものと決しますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本陳情書は採決すべきものと決しました。

閉会 午前十一時十七分開会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よって、会議規則第七条の規定により本日をもって第二回市議会定例会を閉会いたすことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本定例会はこれにて閉会することに決しました。

どうも、長時間ごくろうさまでございました。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、議案第七十一号、議案第七十二号

一、陳情第一号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議會議員

館山市議會議員

吉田常雄
夜田益治
鈴木市光

